

実施計画事業名		廃棄物減量推進事業		評価対象年度	平成 22 年度		
評価担当部署		生活福祉部衛生課		課長(主幹)名	田端 義親		
総合計画体系	分野	3	環境・生活				
	政策	3	環境問題への積極的な取組				
	施策	2	循環型社会の形成を図ります				
	関連施策						
現状と課題	廃棄物の減量及びリサイクルの推進、地域の環境美化など、廃棄物行政として市民との関わりのある事業全般を実施している。						
目的	地域の清掃美化活動及びごみ処分場の延命化の周知活動を通じ、3Rを推進する意識の醸成によって、ごみ減量化を目指す。						
5ヶ年開の 施策展開の	資源物集団回収奨励事業・ごみステーション設置助成事業は事業の継続・拡充を図る。 有料化実施のための有料指定ごみ袋製作にあたっては、平成23年度生ごみ分別用の指定袋を製作する。						
成果指標	名称		単位		21 年度	22 年度	25 年度
	市民一日一人当りの家庭系ごみ排出量		g/人・日	目標	778	773	691
説明	(家庭系ごみ総排出量(t)/人口×365日) × 1,000,000			実績	785	802	
活動指標	名称		単位		21 年度	22 年度	25 年度
	減量化推進委員の数		人	目標	227	300	353
	説明	市が委嘱している減量化推進委員の総数 (各年度3月31日現在)			実績	258	295
	広報・啓発活動の回数		回	目標	20	20	20
	説明	廃棄物減量化のための啓発活動の回数			実績	23	35
	不適正排出の警告件数		件	目標	↓	↓	↓
	説明	不適正排出に対する警告シールの添付件数			実績	28,639	25,796
市民一日一人当りのごみ排出量		g/人・日	目標	1,435	1,187	1,042	
説明	(ごみ総排出量(t)/人口×365日) × 1,000,000			実績	1,276	1,353	
事業費の実績		単位	21 年度 (決算)	22 年度 (評価年度決算見込)	23 年度 (予算)	備考	
	直接事業費(A)	千円	40,681	31,061	35,671		
	国庫支出金	千円	0	0	0		
	道支出金	千円	0	0	0		
	起債	千円	0	0	0		
	その他	千円	16,750	25,500	28,383		
	一般財源	千円	23,931	5,561	7,288		
	この事業にかかる職員数	人/年	1.34	1.28	1.25		
	人件費(B)	千円	9,281	8,692	8,489		
計(A+B)	千円	49,962	39,753	44,160			
状況変化	実施計画当初(平成21年～)からの状況変化 平成21年度に稚内市一般廃棄物処理基本計画(ごみ処理基本計画)を策定。						

【1次評価】

成 果	成果指標の単年度の目標値は達成できたか(単年度の目標値がない場合は、長期的な目標値を達成できそうか予測)
	<p><b>b</b> a 目標達成 b ほぼ目標どおり c 目標達成できず(目標値と大きな差がある)</p> <p>&lt;cの場合は、なぜかを分析して記入する&gt;</p>
細 事 業 の 構 成 ・ 進 め 方	細事業の改廃や新規細事業の必要性はないか
	<p><b>b</b> a 問題なし b 検討の余地がある c 早急な改善が必要</p> <p>&lt;bまたはcの場合は、具体的な細事業名などを挙げ、問題点を記入する&gt;</p> <p>最終処分量は、リサイクルや排出抑制を含む各種減量化の結果として得られるものであり、本事業評価においては全体として論議されるものとする。</p>
コ ス ト 効 率	各細事業の進め方について、市民との協働、他団体等との役割分担の見直し、環境への配慮など、改善の必要性はないか
	<p><b>a</b> a 問題なし b 検討の余地がある c 早急な改善が必要</p> <p>&lt;bまたはcの場合は、具体的な細事業名などを挙げ、問題点を記入する&gt;</p>
総 合 評 価	無駄なコストが発生していないか、投入した予算や人員に見合った効果が得られているか
	<p><b>a</b> a 問題なし b 改善の余地がある</p> <p>&lt;bの場合は、具体的な細事業名などを挙げ、問題点を記入する&gt;</p>
総 合 評 価	<b>B</b> 見直しの検討が必要
	<p>&lt;A~C判定を受けての今後の方針、問題点に対する改善策などを記入する&gt;</p> <p>ゴミ排出量が前年より若干増加しリバウンド状態となっている。この結果をもとに市民に定着してきているゴミの分別、リサイクルを含めた排出抑制ということの周知、徹底を図っていく。減量化推進数も制度スタート時からすると大幅に増員となっており、多くの推進員の協力やこれまでの活動等により、不適正排出(警告シール)件数も約3,000件ほど減少するという結果につながり、環境美化の意識が浸透されてきているものと考えている。</p> <p>今年度は、関係課と連携し環境標語を市民より公募を行い、ゴミ収集車両に掲示の上、地域を走行しており、環境ということへの積極的な取り組みを継続し、多くの市民への啓蒙普及活動をこれからも図っていく。</p>

【2次評価】

成 果	<b>b</b>	細事業の構成	<b>b</b>	細事業の進め方	<b>a</b>	コスト効率	<b>a</b>
総 合 評 価	<b>B</b> 見直しの検討が必要						
	<2次評価者の視点からコメントを記入する>						
	1次評価のとおり取り進めること。						

【内部評価委員会】

意 見	
--------	--